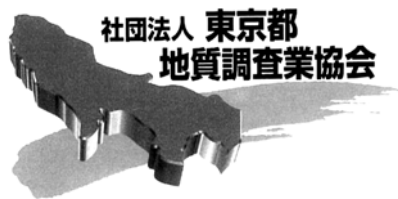


# 東地協ニュース 2009.1 第15号



## 法人化10周年にあたって

社団法人 東京都地質調査業協会  
会長 早田 守廣

私は9月に前会長の後任として新会長に選任されました。よろしくお願いいたします。

さて当協会は10月に法人化10周年を迎え、アルカディア市ヶ谷で「法人化10周年記念式典」を挙行し盛会裏に終えることができました。10周年を迎えることができましたのは、監督官庁であります東京都、顧問の諸先生方、上部団体であります社団法人全国地質調査業協会連合会ならびに関東地質調査業協会、外部理事の皆様（大学・民間企業の先生方）協会活動を広報していただいております新聞各社、最後に日々活動に参加して尽力いただいております会員の皆様のご支援ご協力の賜物であります。ここに改めて関係各位に御礼申し上げます。

10周年を迎えました協会の経緯ならびに組織、主な事業内容について概要をご報告いたします。

### 協会発足後の経緯

- ・昭和60年4月(1985) 関東地質調査業協会東京支部として発足(会員数61社)
- ・平成10年10月(1998) 社団法人の認可を受ける(会員数70社)
- ・平成20年10月(2008) 法人化10周年を迎える(正会員41社、賛助会員9社)

### 協会の運営組織(理事会ならびに協会設置委員会)

- ・理事会(外部理事・内部理事・監事)
- ・総務委員会・広報委員会・技術委員会・防災展ワーキンググループ

### 主な事業

協会は下記に掲げる4つの主要な事業を展開しております。

普及啓発事業(市区町村へ防災講演会講師派遣、パンフレット・技術ノート配布(最新号は第41号「協会法人化10周年記念号」発刊、都立高校へ配布、地質調査業啓蒙活動など)

情報の提供に関する事業(都防災展への出展(関東地質調査業協会と協働)、技術ノートの配布、積算資料の提供、土壌・地下水汚染パンフレットの配布)

地質調査技術の向上に関する事業(技術フォーラム開催、地質見学会開催、業界内部勉強会など)

地質調査業者の経営の近代化促進及び資質の向上に関する事業(時宜にかなったテーマによる講演会、会員会社の近代化・合理化促進など)

今後も上記4事業を柱としてさらに拡大発展をして参ります。

最近増えております大都市圏の自然災害(地震・浸水災害など)に対して地質・土質・土壌・地下水汚染調査等の専門家であります会員の皆様のご協力により「都民の安全と安心を守る」ために尽力していきたいと思っております。

協会を取り巻く経営環境は厳しくなっております。特に発注関係機関各位におかれましては当協会会員がより一層活躍できる多様な場を提供していただけますよう心よりお願い申し上げます。

## ～ 講演会雑感 ～

日時：H20.12.2 主催関東協会、MPC・協賛東地協

場所：アルカディア市ヶ谷

### 演題1：南極大陸に隕石を求めて

講師：国立極地研究所・極地科学資源センター  
教授 小島秀康氏

### 演題2：私たちが見た大地震の脅威-四川大地震-

講師：応用地質株式会社技術本部 副本部長 大塚康範氏  
応用地質株式会社東京本社技術センター  
地盤解析部 グループリーダー 吳 旭氏

#### 演題1：南極大陸に隕石を求めて

小島氏より南極大陸における隕石探査活動の過酷さや調査によって得られた情報の有用性、潜在する可能性についてご報告をして頂きました。

隕石の多くは太陽系が形成した初期に出来た小惑星を母天体とし、約46億年のあいだ変化していないと考えられている。



そこで隕石を分析し、その母天体で起こった出来事（小惑星の衝突など）を推測することによって太陽系の形成モデルを組み立てようとする試みが進められている。

南極隕石の特徴は

1. 数の多さ 南極以外で集めた隕石約5000個、南極では43000個
2. 種類の多さ、めずらしい隕石種を多く含むことが大きな特徴。
3. 汚染がない状態で採取が出来、清浄な状態の隕石が採取できる。

隕石中の微量な成分、特に有機化合物の情報を取り出すことが出来る。

日本のような温暖で雨が多いところでは風化され消えてしまいが南極においては何万年ものあいだ冷凍保存される。

（余談）

講演会後の懇親会では約10万年前の「南極の氷」が参加者に振舞われました。グラスの中でパチパチと泡の弾ける音を聞き、当時の南極大陸に思いをはせながら、ウイスキー・カザ・ロックを楽しみました。



#### 演題2：私達が見た大地震の脅威 四川大地震

まず吳氏より、四川大地震の概要と現地の被災状況を多数のスライド写真や地質図を入れながら説明して頂きました。吳氏は四川出身ということもあり、故郷の被災状況についてのご報告は大変に迫力のあるものでした。

その後、大塚氏より地震の発生メカニズムについて、解析された結果をもとにご自身の見解も加えながら、大変興味深いご報告をして頂きました。

（発生場所と規模）

2008年5月12日、四川大地震は四川盆地とチベット高原の境界部に位置する龍門山断層帯（北東 南西に平行している複数の逆断層）で発生した。

規模は約M8.2、断層面は30°程度の北西傾斜、震源は汶川映秀付近深さ11km 辺り、総長約300km にわたり動いたと推定された。

地表に現れた断層は灌口 安県断層と北川 映秀断層であり、これらの地表面における間隔は10km程度であるが、地下では一つの断層に収れんしている可能性がある。

四川大地震では上記2本の断層が連動して動いており、震源付近の断層に連続していると推定される。

震源付近の上盤は原生代の深成変成複合岩体であり、下盤は四川盆地の地下へと連続する揚子地塊の本体部分であると推定される。



中国で起きたこの大震災をわが国においても教訓として、今後の研究に役立てなければならぬし、地質調査

業に携わる我々にとっても、これらの分野で貢献できる可能性は十分にあると考えます。



以上  
（株）地盤試験所 山本 伊作

## 会議報告等

## 1. 20年7月3日 理事会

- (1) 平成20年度防災展について
- (2) 社団法人化10周年記念事業について
- (3) 講演会協賛について(7月23日 関東協会主催)
- (4) 公益法人制度について
- (5) 総務委員会関係
  - 1) 東地協ニュースについて
- (6) 広報委員会関係
  - 1) PR活動(春季)について
- (7) 技術委員会関係
  - 1) 技術ノート(社団法人化10周年記念誌)編集作業の進捗状況について
  - 2) 地質見学会の開催について(10月15日開催予定)
  - 3) 土壌地下水汚染調査技術勉強会の開催について(7月4日開催予定)
  - 4) (独)日本環境測定分析協会の講習会について(10月頃を予定)
  - 5) 分析ラボ見学会について

## 2. 20年9月9日 理事会(臨時)

- (1) 大和試錐工業(株)退会に伴い大越会長退任による新会長互選について  
早田副会長が出席者全員一致をもって会長に承認可決された。

## 3. 20年9月9日 理事会

- (1) 会員の退会について(大和試錐工業(株)9月1日付)
- (2) 社団法人化10周年記念事業について
- (3) 総務委員会関係
  - 1) 東地協ニュース15号について
- (4) 広報委員会関係
  - 1) PR活動報告
  - 2) あきる野市市民講演会開催について
  - 3) 新宿区から講演会の要請があった。
- (5) 技術委員会関係

- 1) 技術ノート(社団法人化10周年記念誌)について
- 2) 地質見学会の開催について(10月15日開催)
- 3) (独)日本環境測定分析協会の講習会について
- 4) 分析ラボ見学会について
- (6) 平成20年度防災展について
- (7) 平成21年度東京都予算に対する都議会自由民主党への要望について

## 4. 20年10月3日 理事会

- (1) 社団法人化10周年記念式典進行について
- (2) 防災講演会へのPR活動依頼

## 5. 20年11月19日 理事会

- (1) 会員の退会について
  - ・(株)アジア共同設計コンサルタント(9月30日付)
  - ・土質コンサルタント(株)(10月21日付)
  - ・(株)エス・ケー・シー(11月11日付)
- (2) 社団法人化10周年記念事業結果報告
- (3) 総務委員会関係
  - 1) 東地協ニュース15号について
- (4) 広報委員会関係
  - 1) PR活動報告
  - 2) 新宿区防災講演会について(12月14日(日)開催予定)
  - 3) 委員の交替について
- (5) 技術委員会関係
  - 1) 東京都2008地質見学会結果報告(10月15日開催)
  - 2) (社)日本環境測定分析協会の講習会報告(10月14日開催)
  - 3) 分析ラボ見学会(10月24日開催)
  - 4) 外部対応マニュアルについて
- (6) 工事請負契約における単品スライド条項の運用について
- (7) 東京都との防災協定について

## トピックス(協会行事紹介)

平成 20 年度東京都防災展 報告 (8 月 19 日 ~ 21 日)

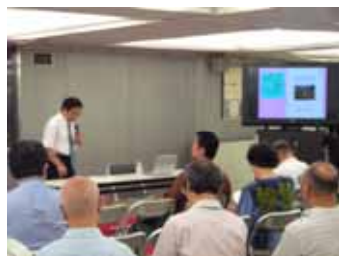
東京都主催の防災展「身近なところから自助・共助による減災対策を進めよう」が8月19日から21日に新宿駅西口広場イベントコーナーで行われた。例年より1日短い日程であった。

協会では「宅地の地盤検索」のコーナーをはじめ、パネル、液状化実験装置、木製倒壊模型装置を展示した。実験装置は実際に駆動し液状化や倒壊の現象を体験してもらい理解を深めた。



特に「宅地の地盤検索」のコーナーは訪れた方の御自宅の地盤を技術員がわかりやすく親切に説明するため、多くの方の興味を引き例年通り大変な人気であった。説明担当者は対応に奔走された。

また、防災講演では防災科研 納口先生、東京電機大学 安田先生および関東学院大学 若松先生の講演が日時を変えて行われ多くの方々が聴視された。



6月に岩手・宮城内陸、7月に岩手県沿岸北部と大規模地震が発生し、地盤防災に関心のある方々で例年になく盛況で、都協会のコーナーを訪れた方々の関心を引いたイベントとであった。

(技術副委員長 菊地大郎)

地質見学会 報告 (10 月 15 日)

10 月 15 日に地質見学会を実施した。案内者は早稲田大学・久保純子教授で、菊地技術副委員長他 3 名の技術委員と、一般の参加者として早田会長をはじめ 25 名が参加した。晴天にも恵まれて、相模川の現河床から相模野台地の

代表的な露頭を巡るなかで、久保先生の丁寧な説明を熱心に聞き入る若い技術者の姿が印象に残った。

(技術委員 細根清治)



富士相模川泥流の露頭 (堀ノ内委員撮影)

会員向け土壌地下水汚染技術実務者講習会

当日のスケジュール

時間	講習内容
13:00 ~ 13:20	受付
13:20 ~ 13:30	開会あいさつ、注意事項
13:30 ~ 14:10	A. 法令等の背景
14:10 ~ 14:50	B. 特定有害物質の基礎知識
14:50 ~ 15:00	休憩
15:00 ~ 15:40	C. 現場技術 (調査)
15:40 ~ 16:20	D. 現場技術 (対策等)
16:20 ~ 16:40	E. 環境配慮
16:40 ~ 16:45	質疑応答
16:45 ~ 16:50	閉会のことば

7 月 4 日 (金) 上野の東京文化会館において、「使える土壌・地下水汚染調査実務の基礎知識」と題して会員企業向けに土壌・地下水汚染の調査実務者講習会を開催いたしました。

土壌汚染対策法が施行されて以降、会員企業の皆様が土壌・地下水汚染調査の依頼を受けることが多いことが想像されますが、業務の際には、法令調査はもちろんのこと自主調査の場合でも一定のルールで行うことが多くなり、しっかりとした調査、対策の立案・実施が必要です。その中で、よりよい土壌・地下水汚染の調査・対策を実施するための勉強会を、調査・対策に携わっている方、またはこれから携わろうとする現場実務者を対象として開催した次第

です。

なお、講習会では東京都地質調査業協会として CPD ポイントを付与する初めての機会でもありました(3pt)。

講習会の内容は「法令等」の話題に始まり、「有害物質の物理・化学的特性」、「現場技術」の解説および調査を通じて必要な「環境への配慮」など、非常に幅広い内容であり、セッションごとに担当者が Q & A 方式で解説いたしました。



当講習会の開催は初めての試みのため、参加人数、CPD の付与手続き、配布方法、スケジュール管理などの運営方法について不安もありましたが、参加者は 45 名に達するとともに、運営にあたってトラブル等もなく盛況のうちに終了することができ、一堂胸をなでおろしました。

また、講習会参加者に対してアンケートを実施し、参加者の感想や意見等を回収いたしました。アンケートの内容は「役に立った」「同僚等に参加を促す」といった肯定的な意見が多く、当講習会の意義を改めて実感しました。一方、講習会の内容やスライド及び資料等に対する改善事項の意見も頂き、来年度以降の講習会へ確実に反映して、よりよい講習会が開催できるように取り組んでいくことを、部会員一同確認いたしました。

#### 日本環境測定分析協会 環境計量士研修会報告

日本環境測定分析協会では毎年「環境計量士研修会」を開催していますが、今年は、土壤汚染対策法施行 5 年ということで、土壤・地下水汚染調査に関する講演と実演について依頼があり、10月14日(火)に開催されました。

当日は、北海道から沖縄まで全国から定員一杯の約 80 名の方の参加がありました。実際の申込み者はこれを上回

っていたとのことで、会場の都合でお断りした方もかなりいたそうです。環境計量士とはいっても、土壤汚染に関する取り組みは、実際に土壤汚染の実務をおこなっている方から、分析のみ、向学のためという方もいて千差万別でした。

午前の部は「土壤汚染調査の実務」と題し、土壤・地下水汚染に係わる法体系と具体的な調査手法に関する講演を行いました。午後の部は、ケーススタディの紹介の後、土壤ガス調査・土壤採取と地下水採取器具を、3 班に分かれて実際に見ていただき、取り扱い方や注意事項、測定の実際について説明しました。その後、環境省水・大気環境局土壤環境課から、土壤環境行政の現状と課題についての講演をいただきました。



講演する者と裏方に回って別室で午後の器具の準備をする者、あるいは司会まで行ないながら、環境部会のほぼ全員で運営をおこない、てんやわんやでしたが無事、研修会を終えることができました。アンケートによる結果は、「参考になった」あるいは「ある程度参考になった」と答えた方が全体の 88% に達し、環境部会一同、ほっとしているところです。

研修会終了後は、事務局主催の懇親会に出席しました。担当者は食事を食べる暇もなく次から次へと質問や相談に対応しており、ここでも関心の高さをうかがい知ることができました。

最後に、研修会の依頼をいただきました日本環境測定分析協会の岡崎技術部長様に厚くお礼申し上げます。

(技術委員 五月女 寛)

### 分析機関見学会報告

2005年から実施してきました、土壌・地下水汚染に関する分析機関の見学会も今年で4年目を迎えました。これまで(株)環境管理センター分析基礎研究所様(八王子市)の多大なる御厚意のもと、座学及び施設見学の時間を作っていただき、有意義な見学会を催してきました。特に今回は環境部会からの御願いに対しても真摯に対応していただきました。

今年は、10月24日(金)の午後に開催し、会員企業9社11名の方の参加がありました。



前半は土壌の前処理工程についての説明と油膜・油臭試験のデモンストレーション、第1種第2種項目の土壌分析、ダイオキシン類の分析の説明、計量証明書発行の手続き、環境測定分析士の説明など講義していただきました。



休憩を挟んで土壌迅速分析法(ボルタンメトリー)の実演していただき、その後2班に分かれて分施設の見学となりました。基本的

には室内に立ち入ることができませんが、パネルや窓から見える範囲で各部署担当の方に丁寧に説明していただきました。分析機関としての分析値に対する姿勢、精度管理の厳しさを感じてもらえたと思います。また、油膜・油臭試験のデモンストレーションでは知識を新たにし、土壌迅速分析法(ボルタメンメトリー)では実演を目の前で見せていただき、貴重な体験をさせていただいたと感じています。

毎回のことですが、参加者のご意見を伺い、次回からの開催に反映させる目的で、参加者の方にアンケートを記入いただきました。その結果から、1名の無回答の方を除き、「参考になった」とのお答えをいただきました。また、全員の方に「同僚の方に参加を勧める」と答えていただきま

した。この土壌・地下水汚染に関する分析機関の見学を、会員企業の社員教育の一環として捉えていただければ、主催者としても嬉しい限りであります。

最後に(株)環境管理センター分析基礎研究所のご担当者様にあつては、大変お忙しい中、この見学会のために準備をしていただき、さらに環境部会からの御願いにも対応していただいたこと、心より感謝の意を表させていただきます。

これからも見学会を開催していきたいと考えております。会員企業の方々の要望や意見などを取り入れながらさらに充実した会にしていきたいと思っております。これまでご参加いただけなかった方や、再度見学したいと思われる方も含め次回のご参加をお待ちいたしております。

なお、この見学会においては、CPDポイントが3ポイント付与されました。(技術委員 岡 信太郎)

平成20年9月1日 あきる野市防災講演会を開催

平成20年9月1日に市民を対象とした「防災講演会」があきる野市秋川ふれあいセンターで開催されました。講師は首都大学東京大学院都市環境科学研究科 山崎晴雄教授(当協会理事)をお願いいたしました。

当日は、「あきる野市の地盤と地震防災」をテーマに講演が行われました。

平成20年12月14日 新宿区防災講演会を開催

平成20年12月14日に新宿区防災・防犯リーダーを対象とした「平成20年度新宿区防災・防犯リーダー実践塾」が新宿区役所5階大会議室で開催され、当協会は2日目の防災の講演に協力しました。講師は昨年同様首都大学東京大学院都市環境科学研究科 山崎晴雄教授(当協会理事)をお願いいたしました。



社団法人化10周年記念事業

社団法人化10周年記念式典が10月3日(金)アルカデ

イア市谷 6 階「阿蘇西」の間において開催された。当日は会員社数 41 社から 79 名が出席、式次第の概要は以下の通り。

#### ・社団法人化 10 周年記念式典

1. 会長挨拶・・・早田 守廣会長
2. 経過報告・・・金道 繁紀副会長
3. 来賓祝辞・・・鈴木 隆道東京都議会議員（東地協顧問）
4. 感謝状授与・・・東地協功労者 19 名
5. 謝辞・・・内藤 正 様

#### ・記念講演

講師 真打 入船亭 扇好 師匠

1. 講演会  
演題 「笑いコミュニケーション」
2. 落語  
「お楽しみ」

#### ・記念祝賀会

1. 会長挨拶
2. 来賓祝辞
3. 乾杯
4. 閉会の辞

記念式典では 鈴木 孝道東京都議会議員より祝辞を頂戴し、東地協功労者 19 名に感謝状が授与された。受賞者を代表して 内藤 正様が謝辞を述べられた。

引き続き真打 入船亭 扇好師匠による講演と落語が開催され会場が笑いに包まれた。



17 時から会場を伊吹の間に移して記念祝賀パーティーを開催した。全地連 瀬古 一郎会長、関東協会 田矢 盛之

理事長から祝辞を頂戴し、関東協会 田井中 彰副理事長の乾杯の音頭で開宴し賑やかに終始した。



## 委員会報告

### 【 総務委員会 】

7 月総務委員会 平成 20 年 7 月 30 日

- (1) 東地協ニュース 15 号について
- (2) 社団法人 10 周年記念事業について
- (3) 平成 20 年 5 月・6 月収支報告について
- (4) 平成 20 年防災展委員配置について

### 【 広報委員会 】

8 月広報委員会 平成 20 年 8 月 26 日

- (1) 平成 20 年度前期 P R 活動報告について
- (2) あきる野市防災講演会について（9 月 1 日に開催予定）
- (3) 新宿区防災講演会かについて（12 月 14 日に開催予定）

12 月広報委員会 平成 20 年 12 月 16 日

- (1) 後期 P R 活動実施状況について
- (2) 広報活動担当地区の確認

### 【 技術委員会 】

平成 20 年度技術委員会活動報告

平成 20 年度 4 月からの技術委員会活動について報告をいたします。なお、本号では、当委員会にかかわる多くのイベントが関係部会委員から併せて報告されており、ここではそれらを含めた概況を報告いたします。

「ノート部会」では、当協会が社団法人 10 周年記念行事（10 月 3 日）を開催することに併せて、特集号 41 として「社団法人化 10 周年記念誌 特集：東京を知る」を発行いたしました。昭和 62 年技術ノート創刊以後の各特集号から、“東京の地形・地質、川、海岸、道路、鉄道、公園”について発行当時の内容と現在に至る時代比較の視点でまとめております。これに加えて“地質図、土地条件図、断面図の読み方”を一般の読者への啓蒙的特集として編集いたしました。表紙には浅草雷門に吊るされた真っ赤な大提灯がどんと張出した写真を載せて、技術ノートの内容を表現した重量感のある傑作となりました。

「講演部会」では、例年の通り東京都防災展（8 月 19 日～21 日）への出展活動がありました。防災講演会は、あきる野市（9 月 1 日）、新宿区（12 月 14 日予定）依頼があり、講師として首都大学山崎教授（都協会外部理事）による活断層と地震に関する講演がなされました。

これまで毎年開催してきた技術フォーラムに代わり、地質見学会（10 月 15 日）が実施されました。早稲田大学久保純子教授の案内による「相模台地の地形と地質」を参加者 29 名において、盛況のうちに進められました。

「環境部会」では、初めてのイベントとした「土壌地下水汚染調査勉強会」（7 月 4 日）が協会員技術者を対象にした講習会が行われました。講師は全て環境部会委員によるもので実務性の高い内容でした。テキストは環境部会委員が 3 年近い準備期間をかけた労作です。参加者は 46 名と盛況でした。

日本環境分析測定協会との交流を背景に、今年度は本部での土壌地下水汚染調査技術の講習会依頼があり、10 月 14 日に環境部会委員が講師になって実施しました。80 名の参加者により盛況のうちに進められました。

分析ラボ見学会（10 月 24 日）は今年で 4 回目と定着し

てきました。（株環境管理センター様には初回より継続して見学場所を提供していただいております、感謝に絶えません。

これらの活動に加えて、今年度からは協会員技術者を対象にした継続教育を推進するために、講習会の参加者および講師となった協会委員に対して CPD ポイントを東地協が付与できるようになったことが大きな前進です。協会員の方々には一層のご支援とご参加をお願いいたします。また、このように各部会の活動は活発でありましたことへの委員各位の尽力には感謝しております。



（文責：技術委員長 大竹 勉）

## 会員コーナー

### 楽器を演奏して思うこと



昨年の 9 月 28 日、私が趣味で参加している音楽クラブの発表会で、久しぶりにギターソロ演奏をしてきました。

曲目は“Air On G String”（G 線上のアリア）、言わずと知れた大バッハの名曲です。

この曲は誰しものが必ず一度は耳にしている有名なメロディーなので、聞き手の皆さんへは違和感無く聴いてもらえる半面、実は弾き手の腕前も如実に露呈してしまう（危険な）題材でもあるのです…

実は今回の発表会にいたるまで、私は殆ど練習時間が取れなかったため、割と簡単に出来るソロ演奏を選択しました。ソロの場合は仮に弾き間違えたとしても他のメンバーに迷惑が掛からず、かつアドリブ（即興演奏）を楽しめるのでかなり気楽なのですが、ソロの場合は一人だけで盛り上がるような独善的な世界に嵌り易いので、会場の雰囲気に沿う曲目を選ぶ必要があります。

さて、世間一般で言われる“音楽”とは CD を買ったりにして「聴く」ことがごく普通の接し方な訳ですが、幼



少より「モノを分解してカラクリを知る」事が大好きだった私には「聴く」だけでは自己欲求を満たしきれず、男ながらにピアノを習い、高校・大学では文化祭毎にコピーバンドを組んで演奏したりしていました。( - まあ、演奏が上手いかどうかは別問題として・・・)

作る側の楽しみの一つには「作品をどこまで作り上げるか」にあります。

自分で満足できるレベルに至ったとき『作品が完成した』と言えるのではないかと思います。この手の芸術作品?の場合は言わば自己満足的な要因が大きいかもしれません。

ですが作品を作る以上、誰かに鑑賞され客観的評価を受けるので「顧客満足」の側面もある事を忘れてはいけません。この辺のバランスは時代的な背景およびクリエイターのエゴに負う所が大きいと思います。

さて、素人ながらも「聴く」側から「作る」側になって暫く経つのですが、楽器の演奏に限らず「何かの作品を弾く/作る」には2つのスキル(能力)が必要だと痛感しております。1つは譜面どおりに正確に弾けるかどうか、再現性のスキルです。絵画で言うならばモチーフを正確にデッサンする能力になるのでしょうか。2つ目は前述の自己満足を満たすためのスキル。楽器ならばスケール(またはコード)を武器にして意のまま適当に弾く力です。表現する力のこと指すのでしょうか。

楽器演奏の様な趣味はいつ辞めても特に誰かに文句を言われる代物ではありませんが、体の欲求が満ちる日まで演奏者(プレイヤー)でありたいと再び思い出された発表会でした。



小曾納 弘文  
(株地盤試験所)

## 会員(正会員・賛助会員)動静

### (1) 会員の退会

- ・大和試錐工業(株)
- ・(株)アジア共同設計コンサルタント
- ・土質コンサルタント(株)
- ・(株)エス・ケー・シー

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、お手数ですが協会事務局までご報告をお願い致します。  
(協会事務局 TEL 03-3252-2963)



## 行事日程

日程	行事名・内容等
2月8日(日)	<b>日野市防災市民塾講演会</b> 「地震と地盤防災(立川断層等)」 場所：日野市民会館 小ホール 講師：首都大学東京大学院教授 山崎晴雄先生(当協会理事)
2月19日(木)	<b>墨田区防災講演会</b> (墨田区職員対象) 場所：墨田区役所 講師：関東学院大学教授 若松加寿江先生(当協会理事)
3月18日(水)	<b>第22回 通常総会</b> 場所：測量地質健保会館 大会議室



## 「技術ノート」のご紹介

技術ノートは、当協会技術委員会が技術情

報誌として昭和62年12月に創刊号を発行して以来、平成21年1月現在で第41号に達しています。

東京を舞台とする様々な話題の中に地形、地質との関連又は基礎工学的な話を織り込みながらその歴史や現在を伝える内容となっています。

- 技術ノート既刊リスト -

No	タイトル	発行年月
1	東京都の地形区分図・地質断面図	S62.12
2	超高層ビルの地質と基礎形式	S63. 3
3	江戸城なりたち、その地形・地質との関係	S63. 7
4	東京湾の埋立、その歴史	S63.10
5	東京の川と水	H 1. 3
6	建築基礎工法の変遷、その地質との関係	H 1. 8
7	隅田川の橋、その地質と基礎形式	H 1.12
8	東京の地下鉄	H 2. 5
9	東京の石	H 2.11
10	新東京都庁舎	H 3. 3
11	東京の遺跡	H 3. 7
12	東京の高速道路	H 3.12
13	東京の温泉	H 4. 3
14	都内の庭園	H 4. 9
15	山手線	H 5. 3
16	東京のベイエリア	H 5.10
17	東京の下水道	H 6. 3
18	東京のエネルギー	H 6. 9
19	東京の山	H 7. 3
20	東京の上水道	H 7. 9
21	東京の低地	H 8. 3
22	東京の運河	H 8.10
23	東京のトンネル	H 9. 3
24	東京の防災	H 9. 9
25	東京の川・神田川	H10. 3
26	東京の台地	H10.10
27	東京の道	H10.12
28	東京の水辺	H11. 3
29	東京のまちなみ	H11.10
30	首都圏を支える鉄道網	H12. 3
31	東京の公園	H12. 9
32	東京のお酒	H13. 3
33	三宅島	H13. 9
34	大江戸線	H14. 3
35	東京の野菜	H14.10

36	東京の斜面と災害	H16. 2
37	東京湾	H16.11
38	多摩川	H17.11
39	東京の地名と地形	H18.11
40	隅田川	H19.11
41	東京を知る - 社団法人化 10 周年記念誌 -	H20.10

当協会HP ( <http://www.tokyo-geo.or.jp/> ) からPDFファイルで読むことができます。

・ 編集後記 ・

業界を不況の風が取り巻く中、東地協「社団法人化 10周年記念式典」が開催され久しぶりに楽しく、賑やかな時間を過ごした。これを機会に会員各社が協会活動に積極的に参加して、活性化できればと期待しております。会員各社の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。



( 総務委員 T.S )



東地協ニュース 2009.1 第15号

発行・編集 (社)東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail [info@tokyo-geo.or.jp](mailto:info@tokyo-geo.or.jp)